



## Dominion® KX III

### クイック セットアップ ガイド

業界最高のパフォーマンスを誇り、エンタープライズクラスのセキュアなデジタルKVM(キーボード/ビデオ/マウス)スイッチである、Dominion KX IIIをご購入いただき、ありがとうございます。

このクイック セットアップ ガイドでは、KX IIIのインストール方法と設定方法について説明します。KX IIIの使用に関する詳細は、アプリケーションからオンラインヘルプにアクセスするか、ラリタンのWebサイトの「サポート(Support)」ページ (<http://www.raritan.com/support>)を参照してください。オンラインヘルプが主な参考資料となりますが、PDF形式のヘルプも「サポート(Support)」ページからダウンロードできます。

### パッケージの内容

各 KX III は、ご使用のモデルに応じて、標準 1U または 2U の 19 インチラックマウントシャーシのスタンドアロン製品として出荷されます。

KX III デバイスは、以下の内容で出荷されます。

- 1 - KX III デバイス
- 1 - KX III クイック セットアップ ガイド
- 1 - ラックマウントキット
- 2 - AC 電源コード
- 1 - ゴム足 1 組 (4 個、デスクトップ設置用)
- 1 - アプリケーションノート
- 1 - 保証書

ラックマウントが必要なラリタン製品を使用する場合、以下の点に注意してください。

- 閉め切ったラック環境では、動作温度が室温より高くなる場合があります。装置で指定された最高動作温度を超えないようにしてください。仕様を参照してください。
- ラック内に十分な空気の流れがあることを確認してください。
- 装置をラックにマウントする際は、機械的に安定して搭載されるように注意してマウントしてください。
- 回路に過大電流が流れないよう、装置を電源回路に接続する際は注意してください。
- 特に、電源タップ(直接接続を除く)など電力供給をはじめとするすべての装置を分岐回路に正しく接地してください。

### ラックマウント

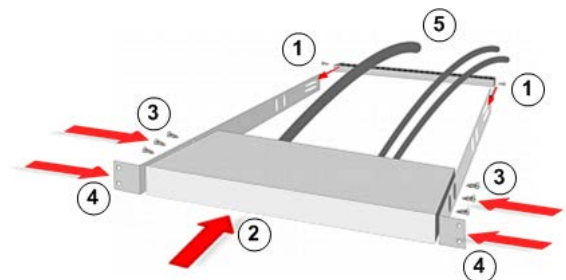
KX III は、標準の 19 インチ機器用ラックの 1U(4.4 cm、1.75 インチ)の垂直スペースに取り付けることができます。

注:ラックマウントの図に描かれているラリタンのデバイスは、例として挙げているにすぎず、お使いのデバイスと異なる場合があります。マウント手順は、お使いのデバイスに従います。

### 前向き取り付け

各手順は、前面ラックマウント図に示されている番号に対応しています。

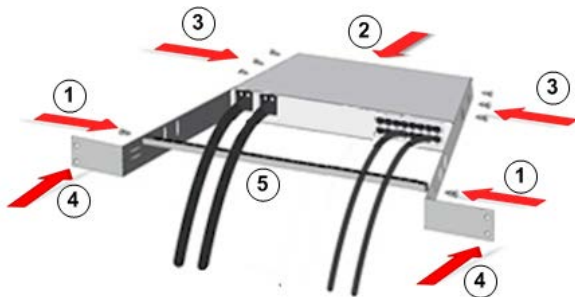
1. 付属の 2 本のネジを使用して側面ブラケットの後端にケーブル支持バーを固定します。
2. KX III を、背面パネルがケーブル支持バーに面した状態で側面ブラケットの間にはめ込み、その前面パネルを側面ブラケットの「耳」に揃えます。
3. 残りの付属のネジ(各側面に 3 本)を使用して、KX III を側面ブラケットに固定します。
4. アセンブリ全体をラックに取り付け、専用のネジ、ボルト、ケーシングなどで側面ブラケットの耳をラックの前面レールに固定します。
5. KX III の背面のパネルにケーブルを接続する場合は、ケーブルをケーブル支持バーに掛けます。



## 後向きの取り付け

各手順は、背面ラックマウント図に示されている番号に対応しています。

1. 付属の 2 本のネジを使用して側面ブラケットの前端(側面ブラケットの「耳」の近く)にケーブル支持バーを固定します。
2. KX III を、背面パネルがケーブル支持バーに面した状態で側面ブラケットの間にはめ込み、その前面パネルを側面ブラケットの後端に揃えます。
3. 残りの付属のネジ(各側面に 3 本)を使用して、KX III を側面ブラケットに固定します。
4. アセンブリ全体をラックに取り付け、専用のネジ、ボルト、ケジナットなどで側面ブラケットの耳をラックの前面レールに固定します。
5. ユーザーステーションまたはスイッチの背面のパネルにケーブルを接続する場合は、ケーブルをケーブル支持バーに掛けます。



## 手順 1: ネットワークファイアウォールの設定

### TCP ポート 5000

TCP ポート 5000 でのネットワークとファイアウォールの通信を許可すると、KX III へのリモートアクセスが有効になります。

または、別の TCP ポートを使用するよう KX III を設定すると、そのポートでネットワークとファイアウォールの通信ができるようになります。

### TCP ポート 443

TCP ポート 443(標準 HTTPS)へのアクセスを許可すると、Web ブラウザ経由で KX III にアクセスできるようになります。

### TCP ポート 80

TCP ポート 80(標準 HTTP)へのアクセスを許可すると、HTTP 要求が自動的に HTTPS にリダイレクトされます。

## 手順 2: KVM ターゲットサーバの設定

### マウスの設定

ずれないマウスモードを利用して、ターゲットサーバでのマウス設定を最小限に抑えることをお勧めします。詳細については、オン

ラインヘルプの「Additional Supported Mouse Settings(サポートされているマウスの追加設定)」

(<http://www.raritan.com/help/kx-iii/v3.0.0/en/index.htm#33105>)を参照してください。

このモードでは、ターゲットマウスの加速または速度が異なる値に設定されている場合でも、クライアントとターゲットのカーソルの同期を維持するために絶対座標が使用されます。

このモードは USB ポートを備えたサーバでサポートされ、仮想メディア CIM のデフォルトのモードです。

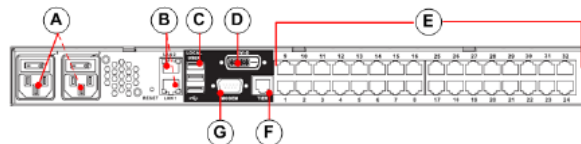
ずれないマウスモードでは、仮想メディア CIM を使用する必要があります。

- D2CIM-VUSB
- D2CIM-DVUSB
- D2CIM-DVUSB-DVI
- D2CIM-DVUSB-HDMI
- D2CIM-DVUSB-DP

### ターゲットサーバ画面解像度

サポートされているターゲットサーバ画面解像度については、オンラインヘルプの「KX III Supported Target Server Video Resolutions(KX III でサポートされているターゲットサーバ画面解像度)」を参照してください。

## 手順 3: 装置の接続



### A: AC 電源



1. KX III 付属の電源コードを使用します。二重化電源フェイルオーバー保護を実装するには、AC 電源コンセントに両方のコードを接続します。

**オプション:** リモートコンソールからの電源の自動検知の有効化に関する詳細は、オンラインヘルプの「Specify Power Supply Autodetection(電源の自動検出の指定)」を参照してください。

## B: ネットワークポート

標準 Ethernet ケーブルを、「LAN1」のラベルの付いたネットワークポートから、Ethernet スイッチ、ハブ、またはルータに接続します。

フェイルオーバー機能または isolation mode(分離モード)機能を有効にするには、標準 Ethernet ケーブルを、「LAN2」のラベルの付いたネットワークポートから、Ethernet スイッチ、ハブ、またはルータに接続します。

## C: ローカルユーザポート(ローカルコンソール)

### ▶ キーボードとマウスを接続するには、次の手順に従います。

- USB キーボードおよびマウスを、KX III の背面のそれぞれのローカルユーザポートに接続します。

ラックに配置されている管理用およびターゲットデバイスアクセス用の KX III ローカルユーザポートを使用します。ローカルユーザポートは、設置およびセットアップの際に必要ですが、それ以降の使用を省略できます。

## D: ローカル DVI-D ポート

シングルリンクの DVI ケーブルは、ローカル DVI モニタまたはキーボードトレイ(KX III には非付属)への接続に使用されます。

ラリタンの T1700-LED または T1900-LED キーボードトレイの DVI ポートに接続します。

必須の DVI-D-VGA コンバータを使用して VGA モニタに接続します。オンラインヘルプの「Connect to a VGA Monitor (Optional) (VGA モニタへの接続(オプション))」(<http://help.raritan.com/kx-iii/v3.0.0/en/#32544>)を参照してください。

## E. KX III へのターゲットサーバの接続

1. CIM のキーボード、マウス、ビデオの各プラグをターゲットサーバの対応するポートに接続します。
2. Cat5/5e/6 ケーブルで、CIM を KX III の背面の使用可能なターゲットサーバポートに接続します。

## F. カスケード接続(オプション)

オンラインヘルプの「Configuring and Enabling Tiering(カスケード接続を設定および有効化する)」(<http://www.raritan.com/help/kx-iii/v3.2.0/en/index.htm#33184>)を参照してください。

## G: モデムポート(オプション) - KX III QSG

オンラインヘルプの「Configuring Modem Settings(モデムを設定する)」を参照してください。

## 手順 4: KX III の設定

以下の手順では、デフォルトのパスワードを変更し、ローカルコンソールで KX III にその IP アドレスを割り当てる必要があります。

他の手順はすべて、ローカルコンソールから実行するか、サポートされている Web ブラウザ経由で、KX III のデフォルト IP アドレスを使用して KX III リモートコンソールから実行できます。

Java™ 1.7 または 1.8 では、Java ベースの Virtual KVM Client を使用する必要があります。Java 1.8.0\_40 では、VKCS を使用する必要があります。

Microsoft .NET® 4.0(またはそれ以降)では、Microsoft Windows®ベースの Active KVM Client(AKC)とともに KX III を使用する必要があります。

## 工場出荷時のデフォルトログイン情報

KX III デバイスは、工場出荷時は以下のデフォルトの設定となっています。

- ユーザ名 = admin  
すべて小文字。  
このユーザには管理者権限があります。
- パスワード = raritan  
すべて小文字。
- IP アドレス = 192.168.0.192

**重要: バックアップと事業継続性のためには、バックアップ管理者用のユーザ名およびパスワードを作成し、その情報を安全な場所に保管しておくことを強くお勧めします。**

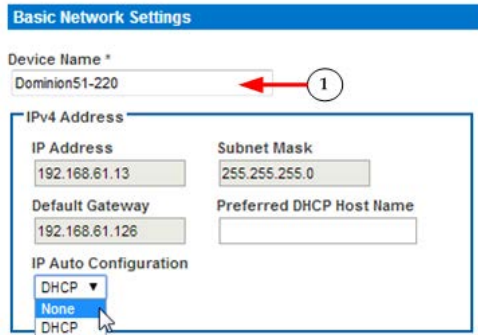
## デフォルトパスワードの変更

KX III デバイスを初めて起動したときは、デフォルトのパスワードを変更する必要があります。

1. ユニットが起動したら、デフォルトのユーザ名「admin」およびパスワード「raritan」を入力します。
2. [Login(ログイン)]をクリックします。
3. 古いパスワード「raritan」を入力して、新しいパスワードを入力し、もう一度入力します。
4. パスワードには、最大 64 文字の英数字と特殊文字を使用できます。
5. [Apply(適用)]をクリックします。
6. 「Confirmation(確認)」ページで[OK]をクリックします。

## KX III へのデバイス名の割り当て

KX III リモートクライアントで「Device Network Settings (デバイスのネットワーク設定)」ページを開きます。



Basic Network Settings

Device Name \*  
Dominion51-220

IPv4 Address

IP Address 192.168.61.13	Subnet Mask 255.255.255.0
Default Gateway 192.168.61.126	Preferred DHCP Host Name

IP Auto Configuration

- DHCP
- None
- DHCP

1. ご使用の KX III デバイスにわかりやすいデバイス名を指定します。

最大 32 文字の英数字と有効な特殊文字を組み合わせで使用できます。文字間にスペースは使用できません。

次に、IP アドレスと DNS を設定します。

## フェイルオーバまたは分離モードの選択

**KX III をデュアル LAN フェイルオーバモードに設定する** (ページ 5)

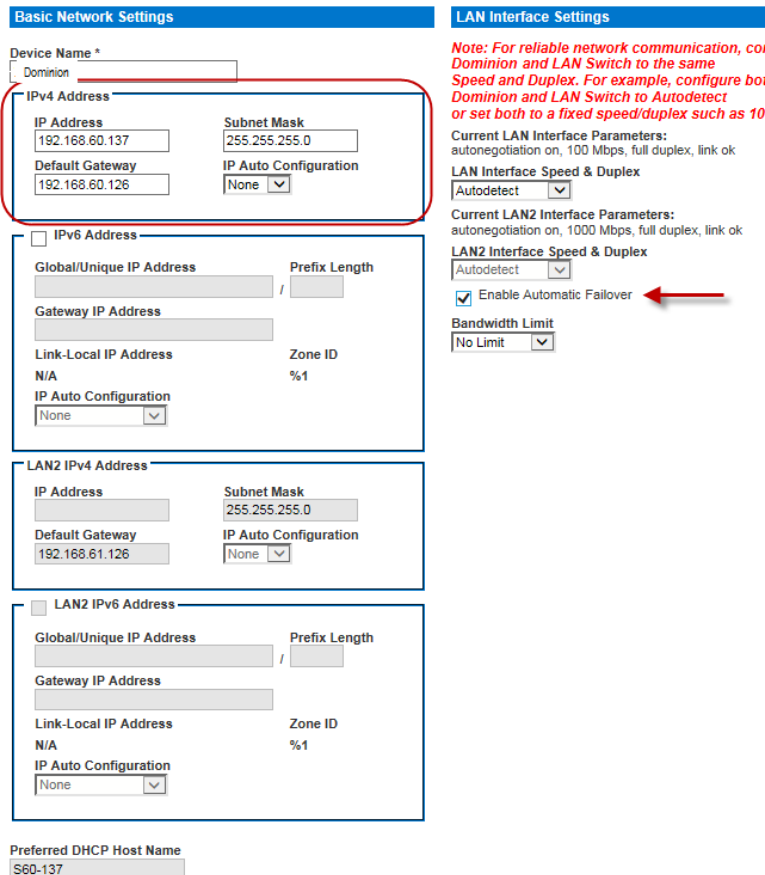
**KX III をデュアル LAN 分離モードに設定する** (ページ 7)

### KX III をデュアル LAN フェイルオーバモードに設定する

LAN1 と LAN2 は、同じ IP アドレスを共有し、自動フェイルオーバに対応します。

LAN1 がプライマリポートです。LAN1 が使用できなくなると、KX III へのアクセスには LAN2 が使用されます。

1. [Device Settings (デバイス設定)] > [Network (ネットワーク)] を選択して、「Device Network Settings (デバイスのネットワーク設定)」ページを開きます。
2. [IPv4] セクションで、[IP Auto Configuration (IP 自動設定)] を [None (設定しない)] に設定します。
3. [LAN Interface Settings (LAN インタフェース設定)] の [Enable Automatic Failover (自動フェイルオーバを有効にする)] チェックボックスをオンにして、フェイルオーバを有効にします。
4. [Default Gateway (デフォルトゲートウェイ)] を入力して、ネットワークパラメータを手動で指定します。
5. 必要な場合は、IPv4 の [IP Address (IP アドレス)] を入力します。デフォルトの IP アドレスは「192.168.0.192」です。
6. IPv4 の [Subnet Mask (サブネットマスク)] を入力します。デフォルトのサブネットマスクは「255.255.255.0」です。
7. フェイルオーバが発生すると、LAN1 の設定が LAN2 に適用されます。



The screenshot shows two configuration panels. The left panel, 'Basic Network Settings', has three sections: 'IPv4 Address' (with IP 192.168.0.137 and Subnet Mask 255.255.255.0), 'IPv6 Address' (disabled), and 'LAN2 IPv4 Address' (with IP 192.168.0.126 and Subnet Mask 255.255.255.0). The right panel, 'LAN Interface Settings', shows parameters for LAN1 and LAN2. A red arrow points to the 'Enable Automatic Failover' checkbox, which is checked. A red note above the LAN1 settings states: 'Note: For reliable network communication, co-Dominion and LAN Switch to the same Speed and Duplex. For example, configure both Dominion and LAN Switch to Autodetect or set both to a fixed speed/duplex such as 10'.

8. 該当する場合は、IPv6 セクションを設定します。
9. [IP Auto Configuration (IP 自動設定)] を選択します。

[None (設定しない)]が選択されている場合、手動で以下を指定する必要があります。

- グローバル/一意の IP アドレス。これは、KX III に割り当てられる IP アドレスです。
- [Prefix Length (固定長)]。これは、IPv6 アドレスで使用するビット数です。
- [Gateway IP Address (ゲートウェイ IP アドレス)]。

[Router Discovery (ルータ検出)]を選択して、[Link-Local (リンクローカル)]サブネットではなく、グローバルまたは一意の IPv6 アドレスを特定します。特定されると、そのアドレスが自動的に適用されます。

このセクションには、以下の読み取り専用詳細情報が表示されることに注意してください。

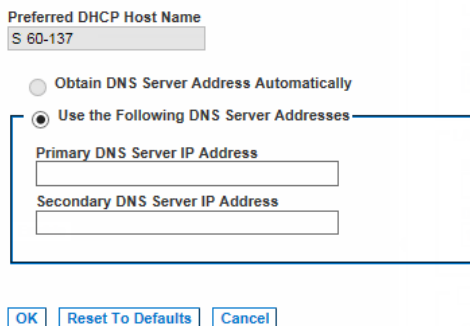
- [Link-Local IP Address (リンクローカル IP アドレス)]。このアドレスは、デバイスに自動的に割り当てられます。近隣ノードを検出する場合や、ルータが存在しない場合に使用されます。
- [Zone ID (ゾーン ID)]。アドレスが関連付けられているデバイスを識別します。[Read-Only (読み取り専用)]

10. 次に、[Use the Following DNS Server Addresses (次の DNS サーバアドレスを使用)]を選択して、[Primary DNS Server IP Address (プライマリ DNS サーバ IP アドレス)]と[Secondary DNS Server IP Address (セカンダリ DNS サーバ IP アドレス)]を入力します。セカンダリアドレスは、停電によりプライマリ DNS サーバ接続が切断された場合に使用されます。

---

注: [Obtain DNS Server Address Automatically (DNS サーバアドレスを自動的に取得)]および[Preferred DHCP Host Name (優先 DHCP ホスト名)]は、KX III が DHCP モードに設定されている場合にのみ有効にできます。

---



Preferred DHCP Host Name  
S 60-137

Obtain DNS Server Address Automatically

Use the Following DNS Server Addresses

Primary DNS Server IP Address

Secondary DNS Server IP Address

OK Reset To Defaults Cancel

11. 終了したら[OK]をクリックします。これで、KX III デバイスはネットワークにアクセスできます。

## KX III をデュアル LAN 分離モードに設定

分離モードでは、異なる IP アドレスを使用して、各 LAN ポートに個別にアクセスすることができます。

このモードでは、フェイルオーバーはサポートされません。

1. [Device Settings(デバイス設定)] > [Network(ネットワーク)] を選択して、「Device Network Settings(デバイスのネットワーク設定)」ページを開きます。
2. [IPv4]セクションで、[IP Auto Configuration(IP 自動設定)]を [None(設定しない)]に設定します。
3. [Enable Automatic Failover(自動フェイルオーバーを有効にする)]チェックボックスがオフになっていることを確認してください。

### Current LAN Interface Parameters:

autonegotiation on, 100 Mbps, full duplex, link ok

### LAN Interface Speed & Duplex

Autodetect

### Current LAN2 Interface Parameters:

autonegotiation on, 1000 Mbps, full duplex, link ok

### LAN2 Interface Speed & Duplex

Autodetect

Enable Automatic Failover

### Bandwidth Limit

No Limit

4. 必要な場合は、[Default Gateway(デフォルトゲートウェイ)]を入力してネットワークパラメータを手動で指定し、次に以下の各手順を完了します。  
または、静的 IP を設定しない場合は、「Disable or Enable DHCP in KX III(KX III で DHCP を無効または有効にする)」を参照してください。
5. 使用する IP アドレスを入力して、KX III LAN1 に接続します。デフォルトの IP アドレスは「192.168.0.192」です。
6. IPv4 の [Subnet Mask(サブネットマスク)]を入力します。デフォルトのサブネットマスクは「255.255.255.0」です。
7. [LAN2 IPv4]セクションで、[IP Auto Configuration(IP 自動設定)]を [None(設定しない)]に設定します。
8. 使用する IP アドレスを入力して、KX III LAN2 に接続します。

9. LAN2 IPv4 の [Default Gateway(デフォルトゲートウェイ)]と [Subnet Mask(サブネットマスク)]を入力します。

The screenshot shows the 'Basic Network Settings' page. At the top, there are tabs for 'Port Access', 'Power', 'User Management', 'Device Settings', and 'Security'. Below these is a breadcrumb 'Home > Device Settings > Network Settings'. The main content area is titled 'Basic Network Settings' and contains several sections. The 'IPv4 Address' section has fields for 'IP Address' (192.168.0.137), 'Subnet Mask' (255.255.255.0), and 'Default Gateway' (192.168.0.128). Below this is an 'IPv6 Address' section with fields for 'Global/Unique IP Address', 'Prefix Length', 'Gateway IP Address', 'Link-Local IP Address', 'Zone ID', and 'IP Auto Configuration' (set to None). The 'LAN2 IPv4 Address' section has fields for 'IP Address' (192.168.52.11), 'Subnet Mask' (255.255.255.0), and 'Default Gateway' (192.168.61.15). Below this is a 'LAN2 IPv6 Address' section with similar fields to the IPv6 section. Red arrows in the image point to the 'Default Gateway' field in the LAN2 IPv4 section and the 'Subnet Mask' field in the same section.

10. 該当する場合は、IPv6 セクションを設定します。
  11. [IP Auto Configuration(IP 自動設定)]を選択します。  
[None(設定しない)]が選択されている場合、手動で以下を指定する必要があります。
    - グローバル/一意の IP アドレス。これは、KX III に割り当てられる IP アドレスです。
    - [Prefix Length(固定長)]。これは、IPv6 アドレスで使用されるビット数です。
    - [Gateway IP Address(ゲートウェイ IP アドレス)]。
- [Router Discovery(ルータ検出)]を選択して、[Link-Local(リンクローカル)]サブネットではなく、グローバルまたは一意の IPv6 アドレスを特定します。特定されると、そのアドレスが自動的に適用されます。
- このセクションには、以下の読み取り専用詳細情報が表示されることに注意してください。
- [Link-Local IP Address(リンクローカル IP アドレス)]。このアドレスは、デバイスに自動的に割り当てられます。近隣ノードを検出する場合や、ルータが存在しない場合に使用されます。
  - [Zone ID(ゾーン ID)]。アドレスが関連付けられているデバイスを識別します。[Read-Only(読み取り専用)]
12. [Use the Following DNS Server Addresses(次の DNS サーバアドレスを使用)]を選択して、[Primary DNS Server IP Address(プライマリ DNS サーバ IP アドレス)]と [Secondary DNS Server IP Address(セカンダリ DNS サーバ IP アドレス)]を入力します。セカンダリアドレスは、停電によりプライマリ DNS サーバ接続が切断された場合に使用されます。

注: [Obtain DNS Server Address Automatically (DNS サーバアドレスを自動的に取得)]および[Preferred DHCP Host Name (優先 DHCP ホスト名)]は、KX III が DHCP モードに設定されている場合にのみ有効にできます。

13. 終了したら[OK]をクリックします。

これで、KX III デバイスは、LAN1 IP アドレスと LAN2 IP アドレスによってアクセスできるようになりました。

## ターゲットサーバの命名

すべてのターゲットサーバを接続していない場合は、接続します。

[Device Settings (デバイス設定)] > [Port Configuration (ポート設定)]を選択し、名前を付けるターゲットサーバの[Port Name (ポート名)]をクリックします。

1. サーバの名前を入力します。最大 32 文字の英数字と特殊文字で指定します。[OK]をクリックします。

## 電源の自動検出の指定

KX III には二重化電源が搭載されています。

両方の電源が使用されている場合は、どちらも KX III で自動的に検出され、それぞれのステータスが通知されます。さらに、[Power Supply Setup (電源設定)]ページの[PowerIn1 Auto Detect (PowerIn1 自動検出)]と[PowerIn2 Auto Detect (PowerIn2 自動検出)]のチェックボックスがどちらも自動的にオンになります。

1つの電源しか使用していない場合は、使用されている電源のみの自動検出を有効にすることができます。

KX III デバイス前面の電源 LED は、1つの電源入力のみが接続されている場合、接続されていない電源のチェックボックスがオンになっていると赤色で点灯し、接続されていない電源のチェックボックスがオフになっていると青色で点灯します。

▶ 使用中の電源の自動検出を有効にするには、次の手順に従います。

Home > Device Settings > Power Supply Setup Page



- [Device Settings (デバイス設定)] > [Power Supply Setup (電源設定)]を選択します。
  - 電源入力を 1 番目の電源に接続している場合は、[PowerIn1 Auto Detect (PowerIn1 自動検出)]オプションを選択します。  
(デバイス後方に面して、デバイス背面の左端の電源。)

または

Home > Device Settings > Power Supply Setup Page



- 電源入力を 2 番目の電源に接続している場合は、[PowerIn2 Auto Detect (PowerIn2 自動検出)]オプションを選択します。  
(デバイス後方に面して、デバイス背面の右端の電源。)
- [OK]をクリックします。

## 日付/時刻の設定

日付と時刻の設定は、LDAPs が有効になっている場合に SSL 証明書の検証に影響します。また、日付と時刻を設定することにより、監査ログに正確なタイムスタンプが記録されるようになります。



設定には、2つの方法があります。

- 日付と時刻を手動で設定する。

The screenshot shows the 'Date/Time Settings' page. The 'Time Zone' is set to '(GMT -05:00) US Eastern'. The 'Adjust for daylight savings time' checkbox is checked. Under 'User Specified Time', the date is set to June 15, 2015, and the time is 10:55:55. A red arrow points to the date and time input fields.

- 日付と時刻をネットワークタイムプロトコル(NTP)サーバと同期させる。

The screenshot shows the 'Date/Time Settings' page. The 'Synchronize with NTP Server' radio button is selected. The 'Primary Time Server' and 'Secondary Time Server' input fields are empty. A red arrow points to the 'Primary Time Server' input field.

1. [Device Settings(デバイス設定)] > [Date/Time(日付/時刻)]を選択して、「Date/Time Settings(日付/時刻の設定)」ページを開きます。
2. [Time Zone(タイムゾーン)]ドロップダウンリストから適切なタイムゾーンを選択します。
3. 夏時間用の調整を行うには、[Adjust for daylight savings time(夏時間用の調整)]チェックボックスをオンにします。
4. 日付と時刻の設定に用いる方法を選択します。
  - [User Specified Time(ユーザによる時刻定義)]. 日付と時刻を手動で入力する場合に、このオプションを使用します。[User Specified Time(ユーザによる時刻定義)]オプションを選択した場合は、日付と時刻を入力します。時刻は、「hh:mm」の形式を使用します(24時間制で入力します)。
  - [Synchronize with NTP Server(NTPサーバと同期)]. 日付と時刻をネットワークタイムプロトコル(NTP)サーバと同期するには、このオプションを選択します。

[Synchronize with NTP Server(NTPサーバと同期)]オプションを選択した場合は、以下の手順に従います。

- [Primary Time server(プライマリタイムサーバ)]のIPアドレスを入力します。
- [Secondary Time server(セカンダリタイムサーバ)]のIPアドレスを入力します。**オプション**

注:「Network(ネットワーク)」ページの[Network Settings(ネットワーク設定)]で[DHCP]が選択されている場合、NTPサーバIPアドレスは、デフォルトではDHCPサーバから自動的に取得されます。NTPサーバIPアドレスを手動で入力するには、[Override DHCP(DHCPを無効にする)]チェックボックスをオンにします。

5. [OK]をクリックします。

## 手順 5: KX III リモートコンソールの起動

Microsoft .NET®や Java Runtime Environment™ がインストールされており、ネットワーク接続機能を備えたワークステーションから KX III リモートコンソールにログインします。

### ▶ KX III リモートコンソールを起動するには、次の手順に従います。

1. サポートされている Web ブラウザを起動します。
2. 使用するクライアントに対応する URL を入力します。
  - http://IP-ADDRESS(サポートされている Microsoft .Net ベースの環境から Active KVM Client を起動する場合、または Virtual KVM Client を起動する場合)  
または
  - http://IP-ADDRESS/vkc(Java ベースの Virtual KVM Client を使用する場合)  
または
  - http://IP-ADDRESS/vkcs(スタンドアロンの Java ベースの Virtual KVM Client を Chrome ブラウザで使用する場合)  
または
  - http://IP-ADDRESS/admin(管理専用クライアントをターゲットアクセス機能なしで使用する場合)。このクライアントは、.NET または Java を必要としません。

IP-ADDRESSは、ご使用の KX III に割り当てられた IP アドレスです。

また、HTTPS を使用するか、管理者によって割り当てられた、KX III の DNS 名(該当する場合)を使用することもできます。
3. 常に、HTTP の IP アドレスから HTTPS の IP アドレスにリダイレクトされます。
4. ユーザ名とパスワードを入力します。[Login(ログイン)]をクリックします。

ヒント: Dominion KX III ユーザステーションをお持ちの場合は、Dominion KX III ユーザステーションを使用して、KX III ターゲットサーバにリモートでアクセスすることができます。**Dominion KX III ユーザステーション**(ページ11)を参照してください。

## リモートからのターゲットサーバのアクセスと制御

KX III の「Port Access (ポートアクセス)」ページには、すべての KX III ポートの一覧があります。

このページには、KX III に接続中のターゲットサーバ、およびその状態と可用性の一覧も参照できます。

## KX III からターゲットサーバへのアクセス

**Port Access**  
Click on the individual port name to see allowable operations.  
0 / 4 Remote KVM channels currently in use.

View By Port	View By Group	View By Search	Set Scan
▲ No.	Name		
1	Dominion_Port1		
2	DP-Connect port13		
3	Dominion-KXX_Port3		

1. KX III の「Port Access (ポートアクセス)」ページで、アクセスするターゲットサーバのポート名をクリックします。[Port Action (ポートアクション)]メニューが開きます。
2. [Port Action (ポートアクション)]メニューの[Connect (接続)]をクリックします。  
[KVM]ウィンドウが開き、ターゲットへの接続が表示されます。

## ターゲットサーバの切り替え

**Port Access**  
Click on the individual port name to see allowable operations.  
0 / 4 Remote KVM channels currently in use.

View By Port	View By Group
▲ No.	Name
	Switch From Windows XP SP3
	Connect
3	Dominion-KXX_Port3

- ① ターゲットサーバを使用しているときに、KX III の「Port Access (ポートアクセス)」ページにアクセスします。
- ② アクセスするターゲットのポート名をクリックします。[Port Action (ポートアクション)]メニューが表示されます。
- ③ [Switch From (切り替え元)]を選択します。選択した新しいターゲットサーバが表示されます。

## ターゲットサーバの切断

▶ **ターゲットサーバにアクセスするには、次の手順に従います。**

- 「Port Access (ポートアクセス)」ページで、切断するターゲットのポート名をクリックし、表示される[Port Action (ポートアクション)]メニューの[Disconnect (切断)]をクリックします。  
または
- Client ウィンドウを閉じます。

## 手順 6: キーボード言語の設定 (オプション)

注: 英語 (アメリカ) / インターナショナルキーボードを使用している場合は、この手順を実行する必要はありません。

英語 (アメリカ) 以外の言語を使用する場合は、該当する言語のキーボードを設定する必要があります。

また、クライアントマシンおよび KVM ターゲットサーバのキーボード言語を同じにする必要があります。

キーボードレイアウトの変更方法の詳細については、お使いのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

## 手順 7: SSL 証明書の作成およびインストール

各 KX III デバイスに固有の SSL 証明書をインストールすることを強くお勧めします。

このセキュリティベストプラクティスにより、Java™ 警告メッセージが抑制され、中間者攻撃を受けにくくなります。

また、今後の Java バージョンやブラウザバージョンから KX III デバイスへのアクセスも阻止されにくくなります。

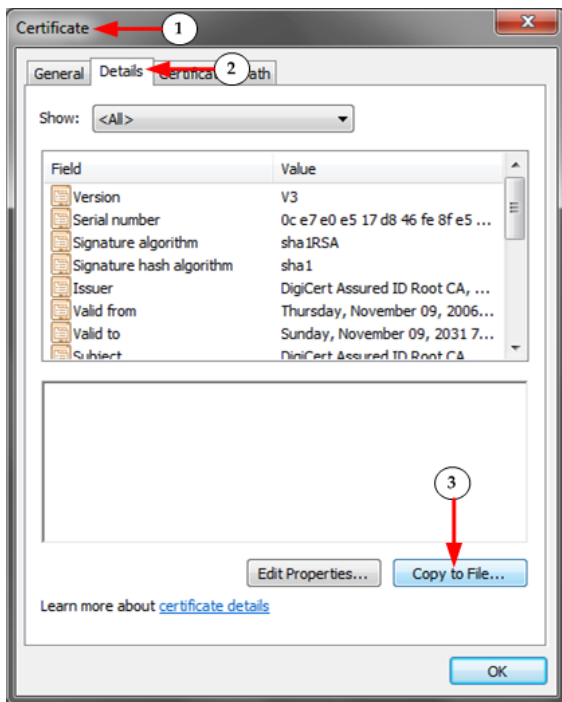
SSL 証明書の作成およびインストールについては、KX III オンラインヘルプの「SSL Certificates (SSL 証明書)」 (<http://www.raritan.com/help/kx-iii/v3.0.0/en/index.htm#11942>) を参照してください。

## バイナリ証明書を Base64 エンコードされた DER 証明書に変換する (オプション)

KX III では、Base64 エンコードされた DER または PEM 形式のいずれかの SSL 証明書が必要です。

バイナリ形式の SSL 証明書を使用している場合は、インストールできません。

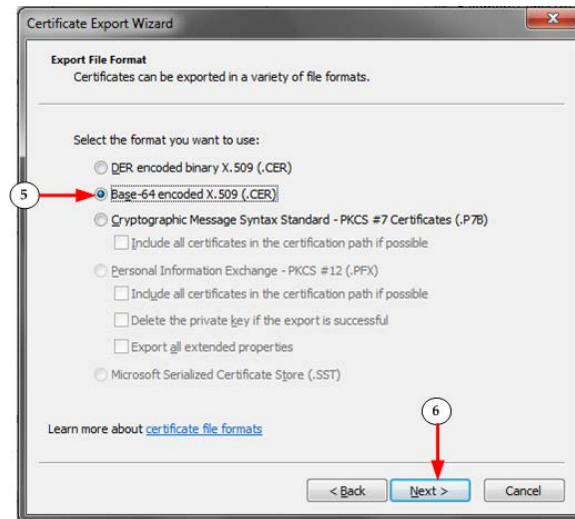
ただし、バイナリ SSL 証明書を変換することができます。



- Windows コンピュータで DEGHKVM0001.cer バイナリファイルを探します。  
DEGHKVM0001.cer ファイルをダブルクリックして、その証明書ダイアログを開きます。
- [Detail(詳細)]タブをクリックします。
- [Copy to File...(ファイルにコピー)]をクリックします。



- [Certificate Export Wizard(証明書エクスポート)]ウィザードが開きます。[Next(次へ)]をクリックして、ウィザードを開始します。



- 2 目のウィザードダイアログで [Base-64 encoded X.509 (Base-64 エンコードされた X.509)] を選択します。
- [Next(次へ)] をクリックしてファイルを Base-64 エンコードされた X.509 として保存します。

これで、証明書を KX III にインストールできます。

## Dominion KX III ユーザステーション

KX III リモートコンソールではなく、スタンドアロンの機器を使用して KX III に接続されているサーバやコンピュータデバイスにアクセスするために、ラリタンの Dominion ユーザステーションをご購入いただくことも可能です。

1 つのユーザステーションで、複数の KX III に接続されているサーバに簡単にアクセスして、ご使用の LAN/WAN ネットワークで素早くスイッチングすることができます。

詳細は、ラリタンの Web サイトの「サポート(Support)」ページ (<http://www.raritan.com/support>) のユーザステーションセクションで、ユーザ用ドキュメントを参照してください。

## その他の情報

KX III およびラリタンの製品ラインナップ全体の詳細については、ラリタンの Web サイト([www.raritan.com](http://www.raritan.com)) を参照してください。技術的な問題については、ラリタンのテクニカルサポート窓口にお問い合わせください。世界各地のテクニカルサポート窓口については、ラリタンの Web サイトの「Support(サポート)」セクションにある「Contact Support(サポートお問い合わせ先)」ページを参照してください。

ラリタンの製品では、GPL および LGPL の下でライセンスされているコードを使用しています。お客様は、オープンソースコードのコピーを要求できます。詳細は、ラリタンの Web サイトにある「Open Source Software Statement(オープンソースソフトウェアについて)」(<http://www.raritan.com/about/legal-statements/open-source-software-statements>) を参照してください。